

浄泉寺報

第35号
2023年
報恩講



報恩講における御本尊のお荘厳

報恩講に寄せて

浄泉寺住職 望月廣三

報恩講という法要は、恩に報いる集いです。誰にたいする「恩」なのか。言うまでもなく、私たち宗派の祖師親鸞聖人にたいする恩です。では、一体その恩とはいかなるものなのか。それをあきらかにするために、この法要があるわけです。

そこで私は、これこそが最も大

切な恩だと言えるものを記述します。それは六字の名号と言われている「念仏」の意味です。念仏を称えれば救われる、と教えられています。念仏は呪文ではありません。いくら称えても救われるものではありません。念仏は迷いの道理を知る智慧なのです。

人間はすべてどう生きるか、に迷っています。だから病気をしたり悩みが出てきたりすると、イライラしたりクヨクヨします。その原因の根拠は何か、なぜ苦しむのか、

がわからないから人は苦しんだり悩んだりするのです。

それを解決するためには苦の原因をあきらかにする道すじを知る必要があります。それを仏智

(仏さまの智慧)と言います。念仏は仏智なのです。それを称え、その徳に感謝するのが念仏なのです。

です。

浄泉寺からのお知らせ

● 春のお彼岸 ●

お参りの日程は、三月上旬におハガキにてお送りします。

● 同朋会 (月例法座) ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。日程等の問合せは浄泉寺まで。

・ 若坊守のひとりごと ・

報恩講を迎え、この一年を振り返り、毎日を大切に思っています。も、なかなか難しいのが私だっただけです。なぜ難しいかと思えば、私の「愚痴」がまず先立つからだと思います。愚痴はどこから生まれるのでしょうか。

仏教では愚痴は「本当のことがわかっていない」ということを言います。世界の中心を自分に置

てしまえば、気に入らないことばかりです。不平不満が愚痴となり、口から山のように出てくると思

います。しかしこの世界は自分も他人も、あらゆるものが複雑に織

り上げられ成り立っているのです、中心はありません。そのことが私

達にはわからず、つい自分中心のものさしでしか考えられず、愚か

だと教えられます。

そんな自分中心の私達の姿を照らしてくれる光が仏法であり、

照らされた自分の姿が見えた時「南無阿弥陀仏」と念仏する心が

起こるのではないのでしょうか。お念仏のみと歩まれた親鸞聖人の

ご生涯に、また改めて出遇わせて

いただく報恩講です。



(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏（仏壇）に座る ㊸ ～ 宗祖 親鸞聖人（3）～

親鸞聖人は、1181年に9歳で出家得度されます。その年は、ちょうど平清盛が亡くなった年にあたります。歴史に詳しい方であれば、この時代が戦乱のただ中であつたことに思いを致されることでしょう。

そのような時代に親鸞聖人は生まれ、比叡山にのぼって20年間修行をされます。その20年のことは、あまり詳しくわかっていないのですが、いくつかのエピソードが、物語という形で伝わっています。

その一つに「赤山明神」の物語というものがあります。比叡山で修行中の親鸞聖人も、時折用事を果たすために都におることがあったようです。そして、親鸞聖人が都から比叡山に帰る途中、赤山明神という祠、今でいえば神社みたいなところで「お坊さん、私を修行の場の比叡山に連れて行ってください」と嘆願する女性に出会います。しかし、当時の比叡山は女人禁制です。その願い出に対して親鸞聖人は「あなたの願いであるけれども、山には女性はのぼることができないのです」と答えられます。するとその女性は「これは異なることをお坊さんはおっしゃいますね。仏教の教えの中には『一切衆生 悉有仏性』（すべてのものには仏様に成る種がある）という言葉があるじゃないですか？鳥や獣も比叡山にはいるでしょう？その鳥や獣には、女性はいないんでしょうか？」と、そういうことを親鸞聖人に問いかけられたというお話です。



親鸞聖人の生涯を描く御絵伝

真面目に打ち込んでいた修行ですが、自分がやっていることの矛盾や誤魔化しに気づかされてドキッとしたのではないかと思うのです。そして「一切の者が救われる道はどこにあるのか？」ということに悩まれて、親鸞聖人は山をおりるという決断をされたのではないかと思います。

どれだけ真面目に生きようとしても、そのまじめさには限界があり、道を求め生きる中での矛盾を抱えながら、知らず知らずのうちに誤魔化し生きている人間…。そんな人間の在り方に真正面から向き合った、それが親鸞聖人の生涯ではなかったかと思うのです。

そのような聖人の姿にあらためて出遇わせていただく報恩講です。（浄泉寺若院・釋亜世）

そのような聖人の姿にあらためて出遇わせていただく報恩講です。（浄泉寺若院・釋亜世）

そのような聖人の姿にあらためて出遇わせていただく報恩講です。（浄泉寺若院・釋亜世）

令和6年(2024年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和5年(2023年)亡
三回忌	令和4年(2022年)亡
七回忌	平成30年(2018年)亡
十三回忌	平成24年(2012年)亡
十七回忌	平成20年(2008年)亡
二十五回忌	平成12年(2000年)亡
三十三回忌	平成4年(1992年)亡
五十回忌	昭和50年(1975年)亡

<発行元・問い合わせ>



眞宗大谷派 楠林山 浄泉寺 電話 0799-22-4798
〒656-0026 洲本市栄町4-3-43
ホームページ <http://jyosenji.asei.info>